

ぬまたっ子

～ 『自立』 『共生』 『蛍雪』 ～

高く評価される 「沼田学園」の教育

沼田学園 副学園長 米倉 卓司

小中一貫校「沼田学園」としての正式なスタートは昨年4月。それまでの、「合同運動会」や「乗り入れ授業」（中学校教諭が小学校の、小学校教諭が中学校の授業に入る）、6年生の中学校登校日など、「沼田学園」として数年前からの歩みが結実しました。

小中学校の連携の充実は、「中1ギャップ」といわれる中学校生活に上手くなじめない子供たちへの対策として全国的に注目されました。現在は、さらに学力向上や地域との結び付きを高めるなどの有効な手段としても期待を集めています。



ところで、「沼田学園」の教育について、沼田町の外側からどのように見えているのでしょうか。どこの町でも連携を大切に、様々な方法で教育を進めています。しかしながら、しっかりとした体制を作り、そして学力や運動会行事の実施など目に見える具体的な結果を出している「沼田学園」は他市町をリードする取組を進めており、北海道教育委員会からも高く評価されています。

その根底にあるのが、地域との密接な結びつきであると私は捉えています。地域に一つしかない小中学校を皆さんに支えていただいているという環境が「沼田だからできる沼田ならではの教育」を形作ってきました。それが「沼田学園」の素晴らしさなのです。

今後、沼田町の取組が成功事例の一つとして広く紹介され、多くの学校の参考になっていくものと思います。また現在小学校が進めている沼田認定こども園との連携も含めて、連携は一層充実していきます。皆さんと一緒に、すてきな「ぬまたっ子」を育てていきたいと考えています。そうして育った子供たちが、やがて大人になり、沼田をさらにすてきな町にしていくのです。

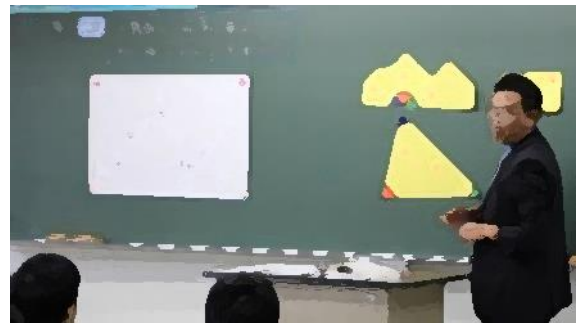
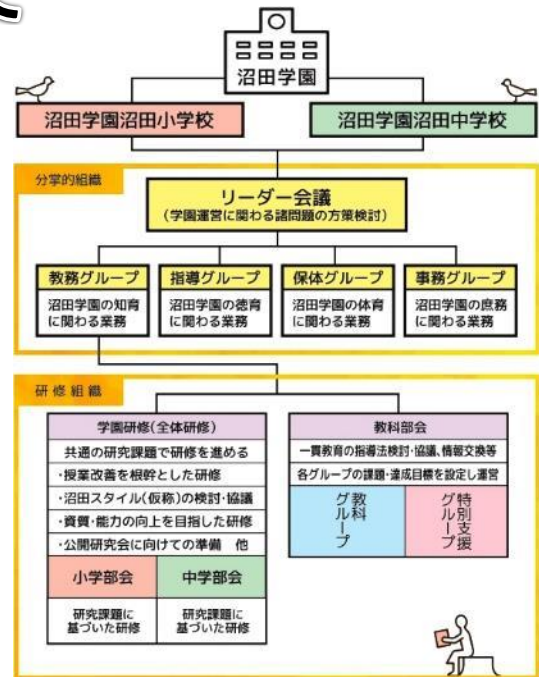
教員研修について

教員は、子供たちを育むことを職責とし、自己の教師力をUPさせるために絶えず研修に努めなければなりません。そのためいろいろな研修の機会があり、絶えず研鑽を積んでいます。学校においても、課題の解決や教員の教師力UPを目指して、「校内研修」という形で計画的・組織的に取り組んでいます。

沼田学園では平成28年度から、それまで小中学校個々で設定していた研究主題を一本化し、9年間の連続した学びに支えられた「学力の確実な定着と向上」を目指しています。昨年度からは研究主題を『自ら進んで考え、学び合う児童・生徒の育成～「沼田スタイル」を活かした授業づくり～』とし、授業において主体的・対話的活動の充実を図るため、沼田の子供の実態に即した授業スタイルで授業を行っています。

具体的には、①学習活動に即した学習課題の設定や、②授業や単元の終わりに学習の振り返りを行うこと、③対話的活動を授業の中にどう取り入れて学習効果を上げていくか等を、毎日の授業を通して実践しています。この取組は小学校では来年度から、中学校では再来年度から完全実施される新学習指導要領の要である『主体的・対話的で深い学び』を体現したもので、研修を深めてより一層の授業改善を行っていきます。

また、これまで小学校・中学校それぞれで取組を行っていた『学習規律』や『家庭学習』、『新体力テスト』等についても小中で情報を共有しながら内容を精査し、発達段階を考慮した上で統一した取組になるよう指導に当たっています。これによって9年間の学校生活がスムーズに行えるようにしています。



沼田学園 学習規律 5年生	
チャイム席	チャイムが 鳴り終わる前に 着席。
始めと終わりのあいさつ	「気をつけ。」 「〇時間を 始めます。」「始めます。」 使うものだけ。休み時間にじゅんぴ、消しゴムの場合は、ごみ箱に。
つくえの上	りつよう (こしぼねを 立てて すわる。)
勉強中の姿勢	手を挙げて。「はい。」は、1回。
発表	体向け、メモ取り、最後まで。
話の聞き方	相手見て、聞こえるように 伝わるように。
話し方	相手見て、聞こえるように 伝わるように。
返事	聞こえるように 「はい。」

お知らせ

8月23日、24日に行われる『令和元年 夜高あんどん祭り』では、小学校、中学校それぞれの発表の他に、小中合同での発表の場があります。小5から中3までの108名で踊る“はね踊り”は大変迫力があって見応え十分です。是非会場に足を運んで頂き、子供たちに温かい声援をお願い致します。